

尾道市立大学生の生活実態

井本 伸

要旨

尾道市立大学生の生活状況（アルバイト就労率・奨学金受給者割合・住居形態・仕送り状況・収入と支出の状況）について概観し、全国平均と比較する。用いるデータは、学内で行ったアンケート調査である。比較のための全国平均は、大学生協による「学生生活実態調査」を用いる。

Keywords: 学生の収入と支出、アルバイト就労率、奨学金受給者割合

目次

1. はじめに
2. 用いるデータ
3. 全国との比較
4. おわりに

1 はじめに

本稿の目的は、尾道市立大学生の生活実態について明らかにすることである。アルバイト就労率、奨学金受給者割合、住居形態（下宿生と自宅生の割合）、下宿生の仕送りの状況といった生活状況や、収入と支出について、その総額と内訳が全国平均と比較してどのような特徴があるかを示す。用いるデータは、筆者の専門演習に所属していた学生が卒業論文を執筆するために学内で行ったアンケート調査である。また、比較するための全国平均のデータは全国大学生生活協同組合連合会（以下、大学生協）による「学生の消費生活に関する実態調査」（以下、学生生活実態調査）を用いる。

本稿と同様に学内でアンケート調査を行い、学生の生活実態を調査した研究には、鈴木他(2021)や山根(2021)がある。どちらも新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化などを、学内アンケートにより調査している。また、渡辺(2015)では学内でのアンケート調査により、学生のアルバイトの実態について調査している。全国規模で長期間に行われた学生生活に関する調査には前述の大学生協による「学生生活実態調査」や、日本学生支援機構による「学生生活調査」、日本私立大学連盟による「私立大学学生生活白書」がある。それぞれ、学生生活に関する様々な項目について調査を行っている。下山・村田(2011)では大学生協の「学生生活実態調査」の個票データを用いて奨学金受給者の消費行動について分析を行っている。その他、両角(2011)では東京大学経営・政策研究センターが2007年に実施した「全国大学生調査」を基に、王(2023)では調査会社を利用して行ったアンケートを基に学生の生活実態について研究を行っている。

地方公立大学である尾道市立大学の学生は、他の全国の大学生と比べて、生活状況や収入と支出の状況にどのような違いがあるかを示し、生活の実態を明らかにしたい。以下本稿の構成は、2章で用いるデータについて説明し、3章で全国との比較を行い、4章でまとめる。

2 用いるデータ

本稿で用いるデータは、筆者の専門演習に所属していた学生が卒業論文を執筆するために学内で行ったアンケート調査である。具体的には、加藤(2014)、上垣内(2014)、中村(2014)のために2013年に行ったもの、濱崎(2016)のために2015年に行ったもの、西尾(2024)のために2023年に行ったものである。各年の質問項目はほぼ同じであるが、大学生協による「学生生活実態調査」と比較するために少し調整を行った。集まったアンケートのうち明らかに不正確なデータを排除したため¹、実際に用いたデータは2013年が509件、2015年が446件、2023年が275件の合計1230件である。属性ごとのサンプルサイズは表1のとおりである²。男女や学年にあまり偏りはないが、年を経ることに全体のサンプルサイズは少なくなり、特に2023年の日本文学科と美術学科のサンプルが少ない。

		1年			2年			3年			4年			合計
		経	日	美	経	日	美	経	日	美	経	日	美	
2013	女	53	18	12	40	33	2	32	15	3	33	6	8	255
	男	83	2	2	59	4	0	39	4	0	56	3	0	252
2015	女	29	10	16	49	6	22	43	6	5	31	3	5	225
	男	46	4	2	68	1	6	54	1	0	36	3	0	221
2023	女	20	15	0	20	1	0	29	11	2	21	0	0	119
	男	37	4	0	37	1	0	34	1	0	36	2	0	152
合計		268	53	32	273	46	30	231	38	10	213	17	13	1224

<表1：属性ごとのサンプルサイズ（アンケートデータを基に筆者作成）>

質問項目は、属性に関する項目として学年・男女・所属学科・住居形態（下宿・自宅）、収入に関する項目としてアルバイト・仕送り・奨学金・その他、支出に関する項目として家賃・食費・光熱費・娯楽・衣服・交通費・教材費・通信費を設定した。収入と支出については一か月あたりの金額を直接記入してもらった。

大学生協の「学生生活実態調査」の全国平均と比較するために、以下のように調整を行った。収入項目において「その他」は何か分かりにくかったためか0円との記入が多く、また記入されていたとしても額が低かったため除外した。「仕送り」は実家暮らしと答えている学生にとっては「小遣い」と解釈した。支出項目について、「学生生活実態調査」に合わせて、「家賃」と「光熱費」の合計を「住居費」とした。「教材費」は「学生生活実態調査」においての「勉強費」と「書籍購入費」を合わせたものとした。「衣服費」は「日常費」、「通信費」は「電話代」と同じとみなした。各年度の自宅生・下宿生別の記述統計量

¹ 住居形態に記載がない、実家暮らしと回答しているにもかかわらず支出項目の家賃に回答がある、下宿と回答しているにもかかわらず家賃を0円と回答している、収入も支出もすべて0円と回答している、といったもの。

² 合計が1,230と一致していないのは、属性に対する回答に欠損値があるため。

は表2のとおりである。

2013 収入	下宿				自宅			
	平均	標準偏差	最小値	最大値	平均	標準偏差	最小値	最大値
仕送り	41,564	36,775	0	265,000	952	5,181	0	40,000
奨学金	27,818	32,072	0	131,000	16,927	26,682	0	110,000
アルバイト	33,768	33,649	0	200,000	37,540	29,109	0	100,000
収入合計	103,150	48,857	0	348,000	55,419	39,941	0	190,000

2013 支出	下宿				自宅			
	平均	標準偏差	最小値	最大値	平均	標準偏差	最小値	最大値
食費	19,816	10,776	0	60,000	4,395	8,107	0	55,000
住居費	44,731	11,808	8,000	100,000	242	1,669	0	15,000
交通費	4,058	5,604	0	55,000	9,323	11,735	0	60,000
娯楽	13,009	13,238	0	100,000	14,169	13,783	0	80,000
教材費	1,845	5,599	0	50,000	637	2,206	0	10,000
日常費	5,203	7,603	0	50,000	4,952	6,591	0	30,000
通信費	4,558	7,065	0	60,000	3,519	5,053	0	35,000
支出合計	93,221	28,435	20,000	240,000	37,236	23,772	0	150,000

2015 収入	下宿				自宅			
	平均	標準偏差	最小値	最大値	平均	標準偏差	最小値	最大値
仕送り	42,009	33,831	0	150,000	818	5,092	0	40,000
奨学金	29,777	34,089	0	171,000	21,300	28,009	0	110,000
アルバイト	36,878	31,953	0	190,000	41,864	31,986	0	170,000
収入合計	108,460	41,512	0	255,000	63,982	45,628	0	220,000

2015 支出	下宿				自宅			
	平均	標準偏差	最小値	最大値	平均	標準偏差	最小値	最大値
食費	21,015	10,947	0	60,000	7,100	7,762	0	40,000
住居費	45,321	11,556	18,000	76,000	409	3,839	0	40,000
交通費	4,147	5,651	0	60,000	9,895	11,469	0	60,000
娯楽	10,536	10,096	0	70,000	11,395	12,402	0	90,000
教材費	2,635	5,094	0	50,000	1,214	3,487	0	20,000
日常費	5,113	7,214	0	50,000	6,855	8,718	0	40,000
通信費	5,000	5,111	0	30,000	4,127	4,683	0	20,000
支出合計	93,768	27,129	28,000	215,000	40,995	28,745	0	190,000

2023 収入	下宿				自宅			
	平均	標準偏差	最小値	最大値	平均	標準偏差	最小値	最大値
仕送り	38,491	31,590	0	120,000	925	5,042	0	38,000
奨学金	22,299	27,634	0	100,000	13,154	25,739	0	100,000
アルバイト	45,772	29,115	0	120,000	49,275	30,472	0	110,000
収入合計	109,349	41,949	0	210,000	63,955	40,038	0	190,000

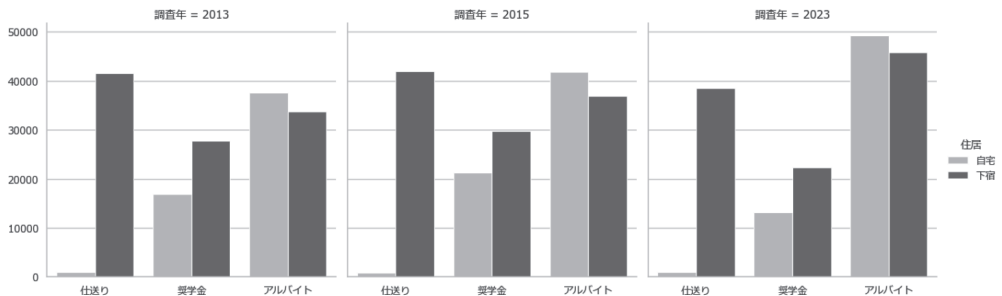
2023 支出	下宿				自宅			
	平均	標準偏差	最小値	最大値	平均	標準偏差	最小値	最大値
食費	20,750	9,460	0	50,000	5,819	6,992	0	30,000
住居費	49,686	10,519	20,000	85,000	137	827	0	6,000
交通費	5,242	5,006	0	23,000	7,900	7,236	0	23,000
娯楽	12,366	10,020	0	45,000	10,972	10,550	0	40,000
教材費	1,433	2,814	0	15,000	389	1,046	0	5,000
日常費	5,410	5,217	0	20,000	5,005	6,009	0	20,000
通信費	3,346	3,274	0	12,000	2,267	3,713	0	12,000
支出合計	98,798	23,687	52,000	160,000	31,213	20,911	0	80,000

全年 収入	下宿				自宅			
	平均	標準偏差	最小値	最大値	平均	標準偏差	最小値	最大値
仕送り	37,241	32,447	0	200,000	42,289	30,760	0	170,000
奨学金	41,134	34,708	0	265,000	899	5,097	0	40,000
アルバイト	27,486	32,134	0	171,000	17,351	26,992	0	110,000
収入合計	106,292	44,992	0	348,000	60,687	42,066	0	220,000

全年 支出	下宿				自宅			
	平均	標準偏差	最小値	最大値	平均	標準偏差	最小値	最大値
食費	20,449	10,598	0	60,000	5,709	7,754	0	55,000
住居費	45,925	11,611	8,000	100,000	269	2,494	0	40,000
交通費	4,328	5,521	0	60,000	9,148	10,639	0	60,000
娯楽	11,956	11,581	0	100,000	12,348	12,542	0	90,000
教材費	2,058	4,983	0	50,000	762	2,518	0	20,000
日常費	5,210	7,038	0	50,000	5,609	7,269	0	40,000
通信費	4,501	5,822	0	60,000	3,384	4,637	0	35,000
支出合計	94,392	27,212	20,000	240,000	37,112	25,239	0	190,000

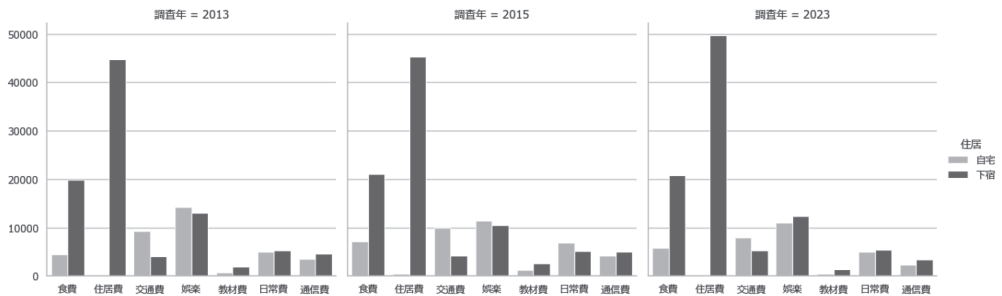
<表2：尾道市立大学生の収入と支出の記述統計量（アンケート調査を基に筆者作成）>

収入について、すべての調査年において自宅生の仕送りはほとんど0に近い。自宅生にとっての仕送りは親からの「小遣い」と解釈できるが、「仕送り」とは下宿生が実家から送ってもらうものと解釈して、小遣いをもらっていたとしても0円と記載したものが多かったためと考えられる。奨学金をもらっている金額は、やはり下宿生の方が多い。これは、下宿生の方が住居費などの生活費がかかるためであろう。アルバイト収入は若干であるが自宅生の方が多い。2015年から2023年にかけて、自宅生、下宿生ともに奨学金の受給額が減り、その分アルバイト収入が増えている。この10年の間に新型コロナウイルス感染症の流行があったが、直接の原因かどうかは分からない。図1は収入についてまとめた棒グラフである。



<図1：尾道市立大学生の収入（アンケート調査を基に筆者作成）>

支出について、すべての調査年において食費と住居費は当然下宿生の方が高い。交通費は、近隣に住んでいることが多い下宿生の方が少なくなるのは当然であろう。その他は大きな差異は見受けられない。図2は支出についてまとめた棒グラフである。



<図2：尾道市立大学生の支出（アンケート調査を基に筆者作成）>

大学生協の「学生生活実態調査」には、「下宿学生の割合」「アルバイト就労率」「奨学金受給者割合」や下宿学生における「仕送り0円」「仕送り10万円以上」の割合も掲載されている。これらの生活形態は本学のアンケートからでも導出可能なので表3に示しておく。

表3によると、アルバイト就労率は、すべての調査年において自宅生の方が高く、自宅と下宿ともに増加していることが分かる。奨学金受給者割合は、すべての調査年において下宿生の方が高い。「仕送り0円」や「仕送り10万円以上」の学生、下宿生の割合については次節の全国との比較で考察する。

	2013年		2015年		2023年	
	自宅	下宿	自宅	下宿	自宅	下宿
アルバイト就労率	72.6%	64.9%	77.3%	70.2%	84.9%	78.0%
奨学金受給者割合	33.1%	49.9%	42.7%	51.8%	30.1%	42.3%
仕送り0円		29.1%		24.7%		30.0%
仕送り10万円以上		11.2%		6.6%		8.0%
住居形態	24.4%	75.6%	24.7%	75.3%	33.8%	66.2%

<表3：尾道市立大学生の生活形態（アンケートデータを基に筆者作成）>

3 全国との比較

この節では全国の学生との比較を行う。比較対象として扱うのは、大学生協の「学生生活実態調査」である。しかし、「学生生活実態調査」には平均の値しか記載されていないため、2つの標本の平均値の差の検定を行うことはできない。したがって、尾道市立大学生の各平均値の95%信頼区間に全国の平均値が入っているかどうかで、統計的に有意に差があるかどうかの判断を行う。

3.1 生活形態の比較

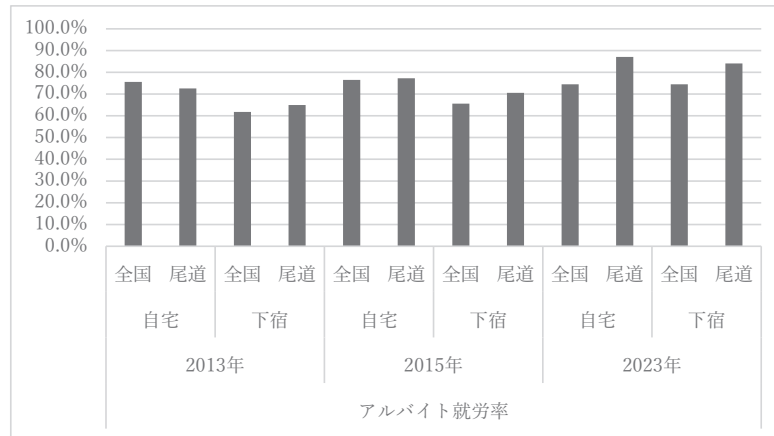
生活の概要については表3にあるアルバイト就労率、奨学金受給者割合、仕送り0円の学生割合、仕送り10万円以上の学生割合、住居形態（自宅・下宿）の5つについて比較を行う。表4は、全国の学生の生活形態である。2023年のアルバイト就労率について自宅生と下宿生の区別がなかったので合わせて記載している。

	2013年		2015年		2023年	
	自宅	下宿	自宅	下宿	自宅	下宿
アルバイト就労率	75.6%	61.8%	76.5%	65.6%	74.5%	
奨学金受給者割合	28.7%	41.1%	28.7%	39.1%	24.9%	31.4%
仕送り0円		8.8%		9.1%		7.5%
仕送り10万円以上		31.8%		30.6%		31.4%
住居形態	45.9%	51.3%	47.2%	62.8%	46.4%	53.6%

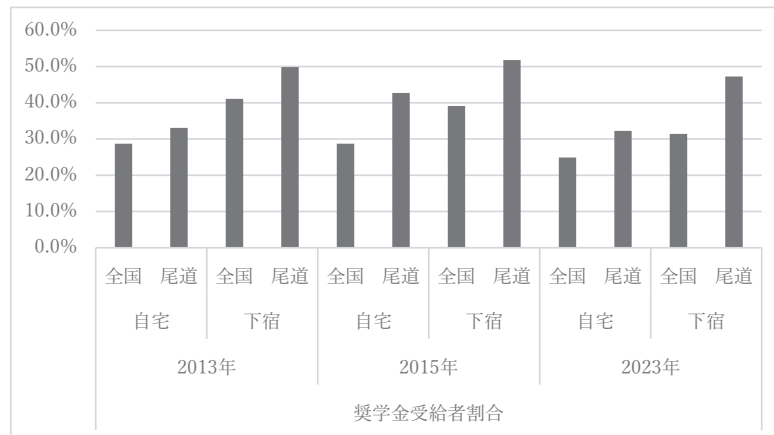
<表4：全国の学生の生活形態（大学生協「第49,51,59回学生生活実態調査」を基に筆者作成）>

図3-1はアルバイト就労率の全国平均との比較である。ほとんど差がないように見えるが、2023年の自宅生については、母比率の区間推定を行うと95%信頼区間から外れるため、全国平均と有意に差があると言える。図3-2は奨学金受給者割合の全国平均との比較である。すべての調査年および住居形態において尾道市立大学生が高いように見えるが、2013年と2023年の自宅生については95%信頼区間から

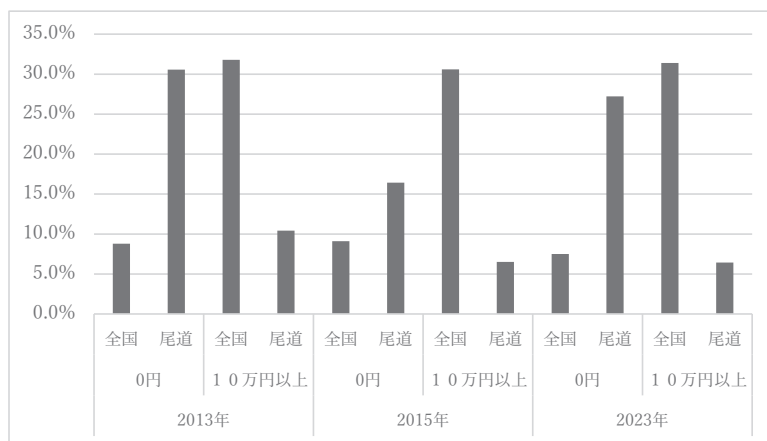
外れていないため、有意に差があるとは言えない。図 3-3 は下宿学生の仕送りの状況である。すべての調査年において、仕送り 0 円の学生の割合は全国平均より高く、仕送り 10 万円以上の学生の割合は全国平均よりも低い。すべて、95%信頼区間から外れるため、全国平均と有意に差があると言える。最後に図 3-4 は、下宿学生の割合である。すべての調査年において全国平均と有意に差があると言えるため、下宿をしている学生が全国平均よりも多いことがわかる。



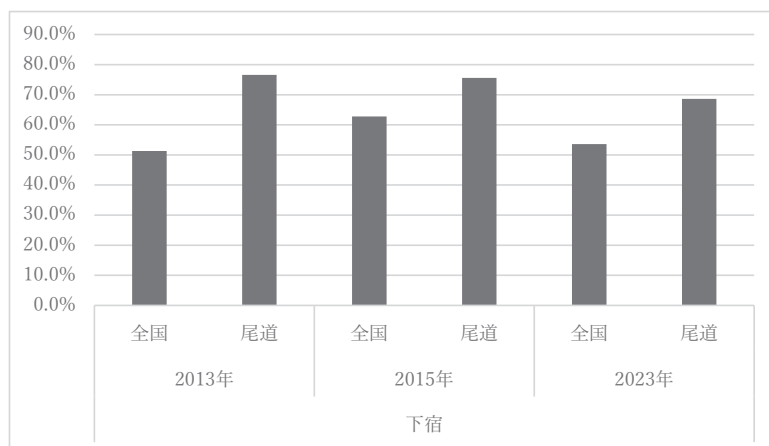
<図 3-1：アルバイト就労率の比較>



<図 3-2：奨学金受給者割合の比較>



<図 3-3：仕送りの状況の比較>



<図 3-4：下宿学生の割合の比較>

以上、有意に差があるものだけをまとめると、表5のようになる。

	2013年		2015年		2023年	
	自宅	下宿	自宅	下宿	自宅	下宿
アルバイト就労率	-	-	-	-	10.4%**	-
奨学金受給者割合	-	8.8%**	14.0%**	12.7%**	-	10.9%**
仕送り0円		20.3%**		15.6%**		22.5%**
仕送り10万円以上		-20.6%**		-24.0%**		-23.4%**
住居形態	24.3%**		12.5%**		12.5%**	

<表 5：生活形態の全国平均との差（有意水準 *5%, **1%）>

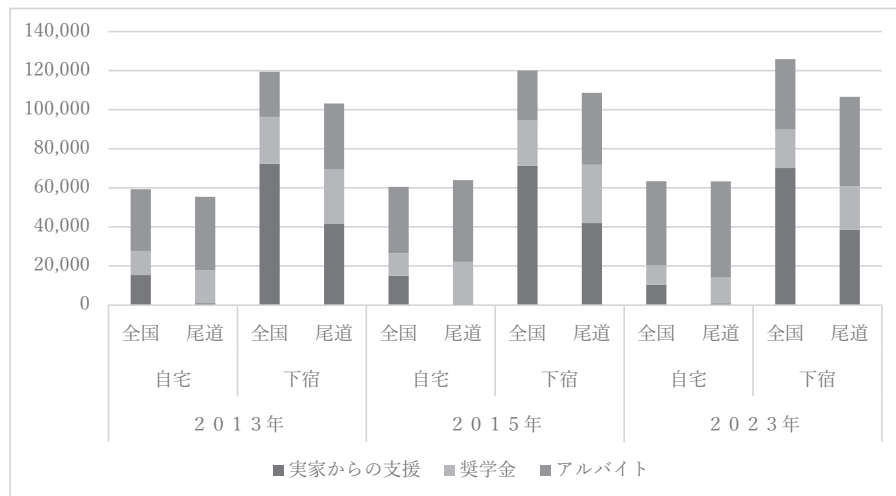
3.2 収入の比較

収入は、仕送り（実家からの支援、自宅学生については小遣い）、アルバイト収入、奨学金収入の3つに分ける。大学生協の「学生生活実態調査」には定職の項目があったが、本学のアンケートでは取っておらず、また額も少ないため除外した。表6は収入の全国平均であり、図4は尾道市立大学生と全国平均の収入の比較である。

収入の合計について、下宿生は全調査年において全国平均より1割程度低いという結果であった。逆に、自宅生は全調査年において全国平均と有意な差はないという結果であった。次に、個別の収入を見てみる。下宿生の仕送りについては、全調査年において有意に全国平均より4割程度低い。自宅生の仕送りは大学生協の「学生生活実態調査」では小遣いや親からの支援としているが、本学のアンケートでは仕送りと記載していたため、自宅生のほとんどが0円と回答しており、全国平均との乖離が大きい。したがって、比較は行わない。奨学金については、2013年の自宅生、2023年の自宅生と下宿生は全国平均と有意な差はないが、その他は全国平均と有意な差があるという結果であった。アルバイトについては、2023年の自宅生以外は、すべて全国平均と有意な差があるという結果であった。特に、下宿生のアルバイト収入は全国平均と比べて高い。

	2013		2015		2023	
	自宅	下宿	自宅	下宿	自宅	下宿
仕送り	15,370	72,280	15,040	71,440	10,350	70,120
奨学金	12,370	24,050	11,470	23,270	10,050	19,660
アルバイト	31,530	23,100	33,960	25,320	43,010	36,110
収入合計	59,270	119,430	60,470	120,030	63,410	125,890

<表6：収入の全国平均（大学生協「第49,51,59回学生生活実態調査」を基に筆者作成）>



<図4：収入の比較>

まとめると、本学の下宿生は親からの支援が全国平均よりも少ないが、その分アルバイトをたくさんし、奨学金を多くもらうことで全国平均よりも1割程度少ない収入を得ているということが分かる。自宅生については、すべての調査年において全国平均と有意な差はないという結果であった。しかし、2013年はアルバイト、2015年は奨学金とアルバイト収入が全国平均と比べて高いので、親からの援助の少なさをすべてアルバイトで賄っていたことになる。岩田(2009)では「奨学金収入がアルバイト時間を短くしている」、浦田(2009)では「奨学金収入が授業外の学習時間の増加させている」、呉他(2019)では「奨学金受給者は国公私立を問わず、学習関連時間が増加する」などの結果を得ているが、2023年の自宅生以外の本学の学生についてはせっかくの奨学金収入が親からの支援の少なさのためアルバイトの減少に結び付かず、学習時間の増加につながっていない可能性がある。以上、有意に差があるものだけをまとめると、表7のようになる。

	2013年		2015年		2023年	
	自宅	下宿	自宅	下宿	自宅	下宿
仕送り	-	-42.5%**	-	-41.2%**	-	-45.1%**
奨学金	-	15.7%*	85.7%**	28.0%**	-	-
アルバイト	19.1%*	46.2%**	23.3%*	45.6%**	-	26.8%**
収入合計	-	-13.6%**	-	-9.6%**	-	-13.1%**

<表7：収入の全国平均との差（有意水準 *5%, **1%）>

3.3 支出の比較

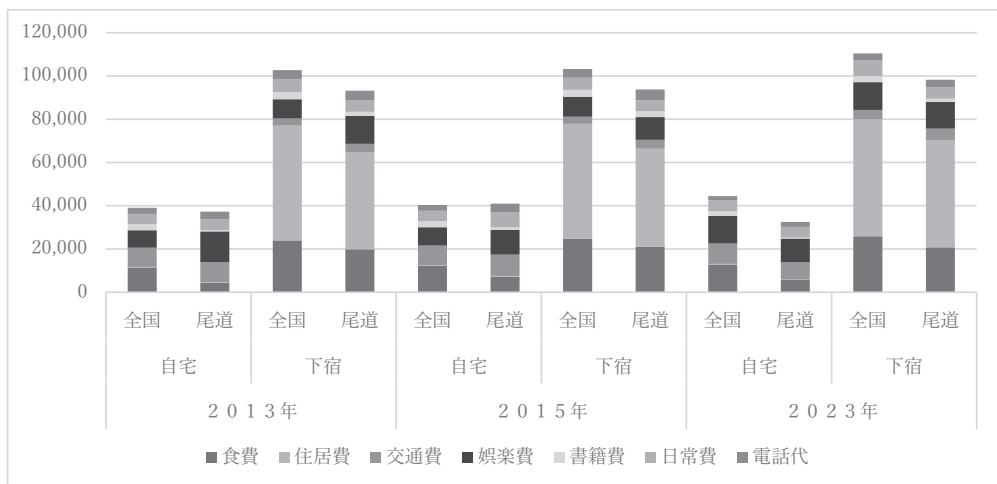
支出は、食費、住居費（家賃と光熱費の合計）、交通費、娯楽、教材費、衣服、通信費に分ける。これらは、大学生協の「学生生活実態調査」に合わせて本学でのアンケートを修正している。表8は支出の全国平均であり、図6は尾道市立大学生と全国平均の支出の比較である。

支出の合計について、収入と同様、下宿生は全調査年において全国平均より1割程度低いという結果であった。自宅生は収入の場合と少し異なり、2013年と2015年は全国平均と差はないが、2023年だけ低いという結果であった。次に、個別の支出について見てみる。食費については、全調査年において自宅生と下宿生ともにすべて全国平均より低い。特に、自宅生はかなり差があり、全国平均の半分程度になっている。自宅学生の食費の多くは外食費であると考えられるので、本学の自宅学生はあまり外食をしていないと推察される。住居費について、下宿生の住居費は全調査年において全国平均より少し低い。これは、尾道市立大学周辺の下宿の家賃が、全国平均よりも低いためだと考えられる。自宅生の住居費は省略する。交通費については、全調査年において下宿生は全国平均より2割ほど高く、自宅生は全国平均と差はない。娯楽費は、2013年と2015年は下宿生と自宅生ともに全国平均よりも高く、2023年は下宿生と自宅生ともに全国平均と差はない。教材費については、大学生協の「学生生活実態調査」の勉強費（パソコン用品、文具、コピー代など）と書籍購入費（雑誌、コミック、電子書籍を含む）を合わせたものを本学アンケートの教材費と対応させる項目としたが、あまり適当であったとはいえないため省略する。日常費（衣料品、化粧品など）は、2015年の自宅生が全国平均より高く、2023年の下宿生が全国平均より低いが、それ以外は全国平均と差はない。電話代（通信費）について、2015年の自宅生と下宿生は全国平均より高いが、それ以外は全国平均と差はない。以上、有意差があるものだけをまとめたものが、表

9である。

	2013		2015		2023	
	自宅	下宿	自宅	下宿	自宅	下宿
食費	11,460	23,980	12,250	24,760	12,600	25,880
住居費	240	53,050	280	53,100	510	54,130
交通費	8,860	3,310	9,020	3,320	9,380	4,330
娯楽費	8,080	8,900	8,490	9,240	12,770	12,840
書籍費	1,740	1,820	1,680	1,720	1,300	1,500
勉学費	1,140	1,510	1,120	1,490	900	1,260
日常費	4,680	5,790	4,800	5,540	5,070	7,330
電話代	2,840	4,390	2,670	4,100	1,930	3,190
支出合計	39,040	102,750	40,310	103,270	44,460	110,460

<表8：支出の全国平均（大学生協「第49,51,59回学生生活実態調査」を基に筆者作成）>



<図5：支出の比較>

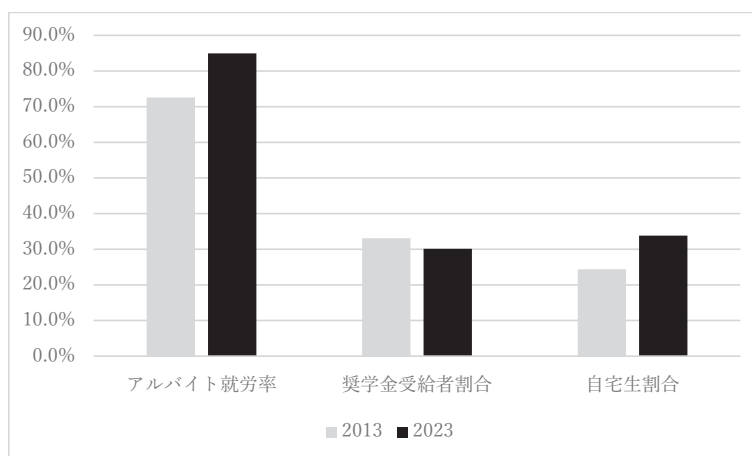
	2013年		2015年		2023年		
	自宅	下宿	自宅	下宿	自宅	下宿	
食費	-61.6%**	-17.4%**	-42.0%**	-15.1%**	-53.8%**	-19.8%**	
住居費	-	-15.7%**	-	-14.6%**	-	-8.2%**	
交通費	-	22.6%**	-	24.9%**	-	21.1%*	
娯楽費	75.4%**	46.2%**	34.2%*	14.0%*	-	-	
日常費	-	-	42.8%*	-	-	-26.2%**	
通信費	-	-	54.6%**	22.0%**	-	-	
支出合計	-	-9.3%**	-	-9.2%**	-29.8%**	-10.6%**	

<表9：支出の全国平均との差（有意水準 *5%, **1%）>

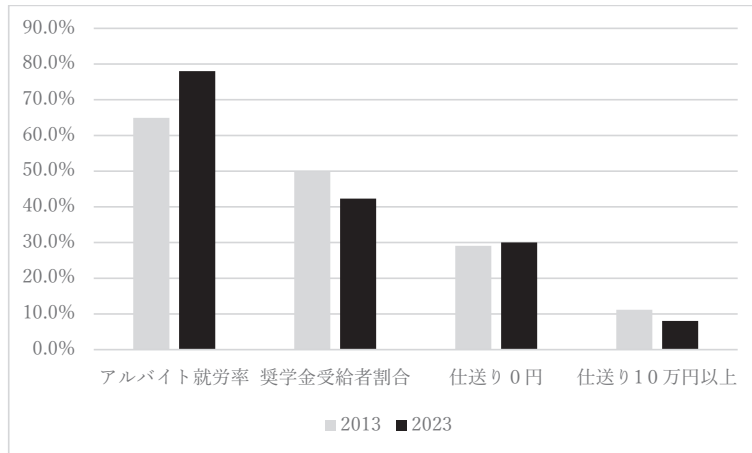
3.4 10年前との比較

最後に、尾道市立大学生の生活がこの10年でどのように変化したのかを見ておく。比較対象はちょうど10年の間隔がある2013年と2023年アンケート調査とする。2群間の平均値の差の検定を行い、有意な差があるかどうかで判断する。

まず、生活形態を比較する。図6-1、図6-2は2013年と2023年の生活形態の変化である。統計的に有意な差があると言えるのは、自宅生と下宿生のアルバイト就労率と住居形態（自宅生の割合）だけである。アルバイト就労率が下宿生と自宅生ともに同程度増加しており、自宅生の割合が1割ほど増加していることが分かる。それ以外の生活形態に有意な差があるとは言えない。



<図6-1：生活形態の変化（自宅生）>



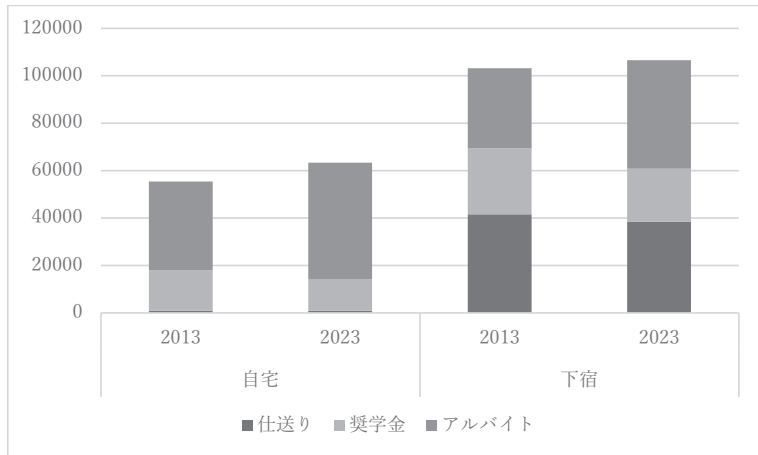
<図 6-2：生活形態の変化（下宿生）>

以下、有意差があるものをまとめたものが、表 10 である。

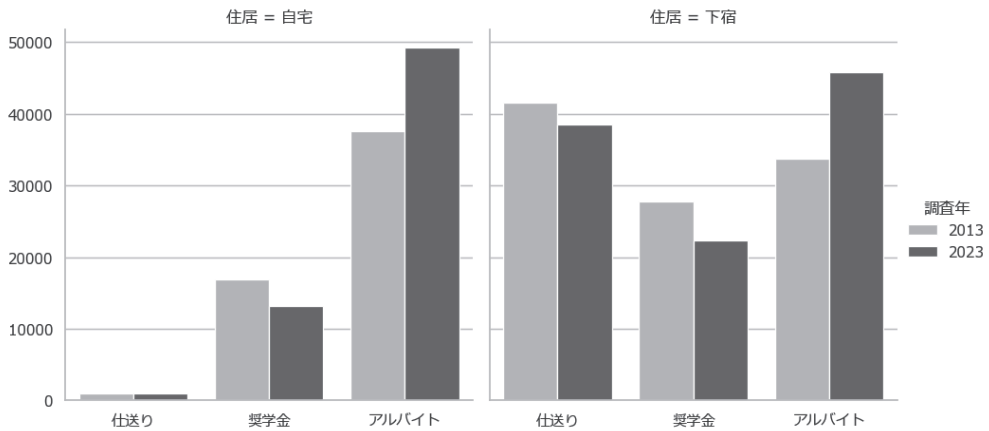
	アルバイト 就労率	奨学金 受給者割合	仕送り 0円	仕送り 10万円以上	住居形態 (自宅生)
自宅	12.4%*	-	-	-	9.5%**
下宿	13.1%**	-	-	-	

<表 10：生活形態の 10 年前との差（有意水準 *5%, **1%）>

次に収入について比較する。図 7-1、図 7-2 は 2013 年と 2023 年の収入である。収入の合計については下宿生と自宅生ともに 2013 年から 2023 年にかけて有意な差があったとは言えない。しかし、下宿生はアルバイト収入と奨学金について有意な差があると言えるため、奨学金収入を減らした分、アルバイト収入によって賄うようになったと考えられる。同様に、自宅生はアルバイト収入について有意な差があると言える。表 10 で見たように、アルバイト就労率も上がっているため、この 10 年で尾道市立大学の学生がアルバイトに費やす時間が増えていると考えられる。岩田 (2020) では、アルバイト就労率やアルバイト収入は 2012 年以降増大を続けていることに言及しているが、本学の学生にも当てはまると言える。以下、有意差があるものをまとめたものが、表 11 である。



<図 7-1: 収入の合計の変化>



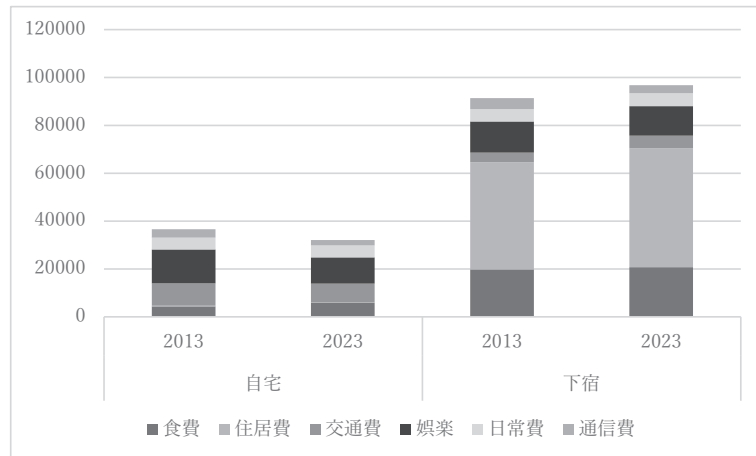
<図 7-2: 各収入の変化>

	仕送り	奨学金	アルバイト	収入合計
下宿	-	-19.8%*	35.5%**	-
自宅	-	-	31.3%**	-

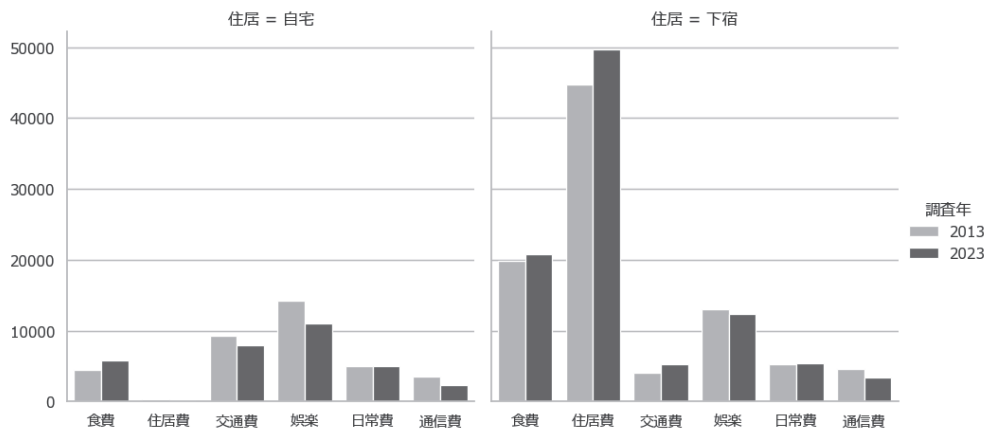
<表 11: 10 年前との収入の差 (有意水準 *5%, **1%) >

最後に支出について比較する。図 8-1、図 8-2 は 2013 年と 2023 年の支出である。支出の合計については自宅生が 10 年前と比べて有意な差があると言えるが、下宿生に有意な差があるとは言えない。個別の支出について、有意に差があると言えるのは、下宿生の住居費と交通費、自宅生と下宿生の通信費である。住居費と交通費が上がっているのは、この 10 年で家賃相場や光熱費が上がっているのが原因

であろう。通信費が下がっているのは、スマートフォンや下宿のインターネット回線の月額が下がっているためと考えられる。以下、有意差があるものだけをまとめたものが、表 11 である。



<図 8-1：支出の合計の変化>



<図 8-1：支出の合計の変化>

	食費	住居費	交通費	娯楽	日常費	通信費	支出合計
下宿	-	11.1%**	29.2%*	-	-	-26.6%**	-
自宅	-	-	-	-	-	-35.6%*	-16.2%*

<表 12：10 年前との支出の差（有意水準 *5%, **1%）>

4 まとめ

尾道市立大学生の生活実態について、アンケート調査に基づきその実態を明らかにした。2013年、2015年、2023年の生活形態・収入・支出のデータから得られた結果を自宅生と下宿生に分けて分析し、全国平均との比較を行うことによって、尾道市立大学の学生の特徴が分かった。

生活の形態については、アルバイト就労率、奨学金受給者割合、仕送りが0円の下宿生の割合、仕送りが10万円以上の下宿生の割合、住居形態（下宿生・自宅生の割合）を調べた。アルバイト就労率は2023年の自宅生だけが全国平均を上回っているが、その他の期間は全国平均と有意な差はなかった。また、10年前と比べて自宅生と下宿生ともにアルバイト就労率は上昇しており、これは、岩田（2020）の“アルバイト就労率やアルバイト収入は2012年以降増大を続けている”という結果とも一致している。下宿生の奨学金受給者割合は全国平均を1割程度上回っているが、自宅生に関しては2015年以外全国平均と有意な差はなかった。また、10年前と比べても受給者の割合は変化していない。仕送りが0円の下宿生の割合は常に全国平均より2割ほど高く、仕送りが10万円以上の下宿生の割合は常に全国平均より2割以上低い。これは、下宿生の仕送りが全国平均より4割程度低い事にも通じることであり、10年前とも変わっていない。そして、下宿生をしている学生の割合は全国平均より常に高いが、10年前に比べると減少している。まとめると、自宅生はあまり全国と変わらないが、下宿生は実家からの援助が少ない学生が多く、その分奨学金受給者も多い。そして近年は、下宿の学生は減りつつある。

収入については、仕送り、奨学金、アルバイトの収入を調べた。収入の合計は、自宅生は全国平均と有意な差はないが、下宿生は1割程度低い。下宿生の仕送り額は、全国平均と比べて4割以上少ない。これは、10年前と比べても変わっていない。自宅生については、仕送りは考慮しなかった。奨学金については、かつては全国平均より多かったが、2023年には全国平均と有意な差は見られなくなった。これは、10年前と比べて下宿生の奨学金収入が2割ほど減ったこととも対応している。アルバイトについては、2023年の自宅生以外は全国平均より高く、10年前と比べて4割も大きくなっている。しかし、アルバイト収入の全国平均も高くなっているため、むしろ差は縮んでいる。

支出については、食費、住居費、交通費、娯楽費、日常費、通信費を調べた。支出の合計は、自宅生はかつて全国平均と有意な差はなかったが2023年には全国平均より3割ほど低くなっている。全国の自宅生の支出は伸びたにもかかわらず、本学の学生の支出は10年前と比べると減ったためである。食費は、常に全国平均より低く、特に自宅生の食費は低い。これは、自宅生の食費と言えば多くの場合外食費であり、大学周辺であまり外食をする機会が少ないことが原因ではないかと考えられる。住居費は、全国平均より低い、近年少し差が縮まっている。自宅生の交通費は全国平均と有意な差はないが、下宿生は2割以上高い。10年前と比べてさらに上がっていることが分かる。娯楽費は、かつて全国平均よりも高かったが、近年その差はなくなっている。本学学生の娯楽費は10年前と変わっていないが、全国平均は上がっているためである。日常費と通信費については特段の特徴は見られないが、通信費が近年下がっているのは、全国的に通信費が安くなっているためと考えられる。

以上、尾道市立大学生の生活実態についてその特徴をまとめた。最後に、アンケート調査を行い、データをまとめてくれたゼミ生たちに感謝したい。

参考文献

- 王 師 (2023) 「コロナ禍における大学生の生活実態—経済支援の観点からのアプローチ—」 大学経営政策研究、第 13 号、pp.1-17。
- 岩田弘三(2009) 「生活時間を付与したデータからみた学生アルバイトの居住形態別状況と奨学金の効果」 東京大学『平成 21 年度先導的大学改革推進委託事業高等教育段階における学生への経済的支援の在り方に関する調査研究報告書』 12 章、pp.250-266。
- 岩田弘三 (2020) 「2012 年以降の学生生活費支出・収入とキャンパス文化の推移—全国大学生生活協同組合連合会『学生の消費生活に関する実態調査』データを中心に—」 武蔵野大学教養教育リサーチセンター 紀要、Vol.10、pp25-43。
- 浦田広朗(2009) 「大学生の学習時間に及ぼす奨学金の効果」 東京大学『平成 21 年度先導的大学改革推進委託事業高等教育段階における学生への経済的支援の在り方に関する調査研究報告書』 11 章、pp.241-249。
- 加藤正法(2014) 「尾道市立大学生の消費傾向と消費の地域特性」 井本ゼミ卒業論文
- 上垣内勇輝(2014) 「学生の各支出項目の所得弾力性とその分類」 井本ゼミ卒業論文
- 呉書雅・島一則・西村君平 (2019) 「日本学生支援機構貸与型奨学金の受給が生活時間に与える影響—傾向スコアマッチングによる検証—」 高等教育研究、第 22 集、pp.207-229。
- 下山朗・村田治 (2011) 「奨学金給付と学生の消費行動—学生生活実態調査の個票データを用いて—」 生活経済学研究、No.33、pp.19-32
- 鈴木富之・伊藤舞衣・印南絵梨・田代凧・小倉秀斗・白金励大・田中吏規(2021) 「新型コロナウイルス (COVID-19) パンデミックによる大学生の行動様式の変化—2021 年度宇都宮大学地域デザイン科学部「社会調査実習」成果報告—」 宇都宮大学地域デザイン科学部研究紀要『地域デザイン科学』、第 11 号 pp.49-62
- 中村祥吾(2014) 「尾道市立大学生の消費傾向分析」 井本ゼミ卒業論文
- 濱崎玲治(2016) 「消費税増税による尾道市立大学生の消費傾向の変化」 井本ゼミ卒業論文
- 西尾 海(2024) 「新型コロナウイルスの感染拡大による大学生への経済的影響」 井本ゼミ卒業論文
- 両角亜希子 (2011) 「大学生の生活・学習と経済状況」 季刊家計経済研究、No.91、pp.22-32
- 山根真紀・大宮ともこ・石井智也・住田健(2021) 「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 感染拡大における学生の健康及び生活に関する調査報告」 日本福祉大学スポーツ科学論集第 4 巻、pp.65-73
- 渡辺裕子 (2015) 「学生におけるアルバイトの実態と位置づけ—駿河台大学学生生活基本調査から—」 駿河台大学論叢、第 50 号、pp.169-187
- 全国大学生生活協同組合連合会 (2013) 「第 49 回学生の消費生活に関する実態調査」
- 全国大学生生活協同組合連合会 (2015) 「第 51 回学生の消費生活に関する実態調査」
- 全国大学生生活協同組合連合会 (2023) 「第 59 回学生の消費生活に関する実態調査」